

## 平成21年度特別支援専門部活動報告

### <ゆきわり養護学校の実践について>

#### 1 実践にあたって

ゆきわり養護学校では、自立活動を主とする教育課程の生徒たちに陶芸用粘土を使用した学習を設定し、感触遊びを通して自発的な手の動きを引き出すための工夫に取り組んだ。工夫したのは以下の点である。

- ① 生徒に合わせて様々な固さの粘土を準備した。（「どろどろ」「べたべた」から通常の固さまで）
- ② 生徒の活動の様子を見ながら固さは変えていった。
- ③ 押す・握るなどの動きだけでなく、はがす、引っ張る、ちぎるなどの動きを引き出すために粘土を机にはりつけて提示した。
- ④ 握力の弱い生徒は、ペンのキャップなどを、ひじや足で粘土に押し付け模様をつけた。

#### 2 活動より

最初は粘土の冷たさに驚いていた生徒もいたが、粘土の感触を楽しみながら、それぞれに自分から手を動かすことができた。

完成した作品はゆきわり祭（学園祭）に出品展示した。



1-③ 机に粘土をはりつけて提示



1-③ 図画板に粘土をはりつけて提示



1-④ ペンのキャップを押し付けて模様をつけた作品

### <米沢養護学校高等部の実践について> [音や光が出る作業学習用の道具の製作]

#### 1 実践にあたって

石けん加工班の1年男子Mさんのための道具の開発と改良についてまとめた。

Mさんにはぎやかな集団で活動することは好きだが、活動の切り替えが難しいことが多く、教師の個別の支援が必要な生徒である。ただ、音楽が好きなのでそれを利用できないか考えた。

##### ○ 製作のポイント

- ① 音や光で作業場に誘うことができる。
- ② 操作をすると音が出て楽しく作業できるようにする。
- ③ 複雑な構造や特殊な材料を使わず、メンテナンスや改良がしやすいようにする。

#### 2 製作の実際と改良

- (1) その1：これまで使っていたドリルスタンドを利用した「石けん砕き機」に、LEDの小さいライトを付け、メロディーチャイムを取り付け、スタンドを動かして石けんを砕くと短い音楽が流れるようにした。
- (2) その2：光や音楽に興味を持って道具に近づき、何回か操作できたが、スイッチを触ったり、砕いた石けんをいたずらしたりするので、周りにカバーを付けた。
- (3) その3：上からも手を入れてしまうので、上にもカバーを付けた。



その1



その2



その3